

平成 24 年度 第 3 回 男女共同参画懇話会

議事録

日 時 2013年3月15日(金) 14:00~15:30

場 所 市役所 東館1階 会議室6

出席者 委 員...石川、魚住、大島、加藤、具、古賀、三和、山本、
事務局...藤井課長、馬場係長、原田

別紙次第にそって進行。

1. あいさつ

古賀会長より挨拶

2. 議題

(1) 男女共同参画懇話会事業報告

(三和評価部会長より)

・23年度の事業評価も無事に終了することができた。現在、男女共同参画事業の評価が豊明市で唯一の外部評価。今後も継続して外部評価を行っていくことが重要だと思われる。

(加藤部会長より)

・今年の男女共同参画フェスタの参加人数は238名と盛況であった。自分は怪我をしまして参加できずに申し訳なかった。今年度は評価部会の事業評価に加え推進部会による改善提案を行った。どの程度まで踏み込んだ提案をすればよいのか手探りで不安だったが、提案した内容に各課から回答をいただくことができ、形として残すことができたのはとてもよかったと思う。

(2) 事務局報告

平成24年度男女共同参画事業実績について

・男女共同参画の事業評価にあたり評価部会からは評価を、推進部会からは具体的な推進提案をいただき感謝する。

・男女共同参画講座らしくでは託児を有料にしたせいか、延べ託児数が112名から31名に激減した。また参加者も132名から83名に減っている。

・今年は男性の男女共同参画の推進に注力した。父子ふれあい体験では祝日の開催や広報PR不足もあり参加者が伸び悩んだ。反省を来年に活かしたい。また今年は新しい試みとしてイクジイ講座を開催した。「地域で育てる孫」を目指し女性の参加も許可した。参加者は17名で男女比は7:10であった。

・今年は男女共同参画標語を市内在住・在勤に絞った。しかしながら昨年と比べても遜

色ない作品が多く応募された。来年度以降も市内在住・在勤に絞っていきたい。

質疑応答、その他意見

Q．託児料を有料化することで参加者が減り、学ぶ機会が失われたことで人材が成長する機会も失われたと思われる。このことについてはどう考えるか？

A．今年度が託児料有料化の初の試みであった。25年度の参加状況を見ながら参加者が機会を失うデメリットについても視野に入れて今後の託児料については検討していきたい。

意見

・現在公立保育園だけでなく民間の保育園も満員の状態であり、働く女性が増えている。受講者が減ったのは託児料だけでなく社会情勢も影響があるのではないか。名古屋YWCAでは講座を平日には開催せず土日のみで行っている。また、長期の講座もやらず単発の講座が中心の状況である。

(3) 次年度以降の男女共同参画の推進について

- ・市民への啓発教育も大切だが職員の研修にも時間をかけていくべきではないか。
- ・男女「平等」参画にしてはどうかと市民から意見があった。男女共同参画基本法では第2条で「対等な構成員」との記載がある。同様にプランの中身にて平等と記し、題目はこれまでの経緯を活かすためにも共同のままでよいのではないか。
- ・1次プランは業者が全て作ったが2次のプランは懇話会が入って作った。契約の際にコンサルタント会社との契約内容をよく詰めて作らないと画一的なプランしかできず、市民の意見を取り入れる独自性が出ない。
- ・第2次プランは懇話会以外でも何度も会議をし、案を練っていった。3次プランも同様の策定方法にするなら予算を確保してほしい。
- ・アンケートについて。市民の意識が育っているか、過去と現在の差異が分かるようなアンケートを作る方がよい。またアンケートを集める際は「待ち」の姿勢でなく、文化祭でブースを出すなど自分から出て行ってアンケートを集めるべき。アンケート結果はグラフ表示をし、第2次までの成果が見えるようなものにする。
- ・評価の対象となった男女共同参画事業が多い。次期プランでは絞り込んでいくべき。

3. その他

- ・今年度で退任する魚住、大島、山本副会長、古賀会長より挨拶。
- ・市民協働課から異動する原田主事より挨拶。
- ・次回懇話会を5月下旬に行う。事務局より来期の委員と日程の調整をし、今月中に第1回懇話会の日程を決定し、連絡する